

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】 徳田 恵

【所属】 (助成決定時) 神戸大学国際文化学研究所

【研究題目】 都市先住民女性の複合差別の研究——カナダ・アルバータ州エドモントンの事例を通して

【研究の目的】 (400字程度)

本研究はカナダ都市先住民が直面する複数の差別が重なる「複合差別」の状況を現地調査に基づき明らかにしようとするものであった。民族誌的事例として、多様な先住民の移住先であるカナダ・アルバータ州エドモントンの先住民のホームレス女性を取り上げた。都市で女性は男性以上に脆弱な状況にあり、都市先住民女性がホームレスになる背景には「先住民」かつ「女性」であるという二重の要因があると言われている。「先住民」かつ「女性」というカテゴリーの軸が交差するとき、彼女たちの社会関係や日常的経験にいかなる影響を及ぼすのであろうか。本研究では、都市先住民女性がホームレスになった複合差別の実態を「先住民」のカテゴリーの軸に「女性」のジェンダーの軸も加えることで、より本質的な解明に近づくことをめざした。

【研究の内容・方法】 (800字程度)

研究内容

本研究は、主にアルバータ州エドモントンのダウンタウンの西側で出会った先住民女性を主たる対象とした。エドモントンの特にダウンタウンの西側には、ホームレスを支援するシェルターなどの施設が多く立ち並んでおり、ホームレスや困窮している人々が集う地域となっている。申請者は、それらの支援施設の複数でボランティアというかたちで入り、この地域周辺に暮らす住民全般と知り合うきっかけをつくることができた。

研究方法

本研究は、私的な内容を含むため、調査を説明し、調査許可を得た上で、人類学的な参与観察的フィールドワークを実施した。以下の3つの調査項目を明らかにし、研究目的を達成しようとした。

項目(1) 先住民女性の背景の把握

まず、先住民男女の出身地、年齢、性別など属性について聞き取りを行い、個々の特徴を把握した。プライバシーや個人情報の取り扱いに注意し、データベースとして構築した。

項目(2) 先住民女性の社会・経済的状況の把握

先住民男女と良好な関係を築いた上で、社会経済的状況にも踏み込み、聞き取りを行った。たとえば、仕事と収入源、食事内容、健康状況、寝泊まりをしている場所、出身地との関係、施設・制度の利用状況を聞き取り、社会経済的状況に女性独自の条件や要因があるかを明らかにした。

項目(3) 先住民女性の移住の経緯とホームレスとなった理由の把握と分析

先住民男女のライフヒストリーを収集することで、これまでの移動歴、エドモントンでの滞在期間、エドモントンと出身地との違い、エドモントンに移住した経緯、移住後、いかなる支援や施設が必要となったか、現在利用する施設にいかなる支援を求めているか聞き取りを行った。その上で、移動の契機や施設の利用などに女性独自のものがあるか、総合的に分析、検討した。

【結論・考察】 (400字程度)

カナダでは、先住民に対する過去の同化政策がもたらした構造的な不平等に対する理解が広まりつつあるが、その影響はジェンダーや階級などの他の社会的要因と複雑に絡み合いながら、特に先住民女性に深刻な影響を及ぼしている。本研究で実施した参与観察とインタビュー調査から、非先住民の間で先住民への同情が語られる一方で、税制上の優遇措置や「立ち直り」の遅さに対するフラストレーションが存在し、先住民女性に対す

るステレオタイプや否定的な認識が依然として根強いことが明らかとなった。

特にエドモントンにおける住宅問題では、先住民女性が多くホームレス状態に置かれており、彼女たちは都市部における人種的・ジェンダー的周縁化の交差点に位置していることが浮き彫りになった。彼女たちは多様な背景からこの都市に入流しており、貧困、家庭内暴力、制度的不平等といった複数の脆弱性が重なり合っていた。参与観察では、彼女たちが他のマイノリティ男性と協力関係を構築する様子も観察された。なかには、経済的・知識的資源をもつ男性もあり、そうした存在が彼女たちにとって一時的な支援となる場面もあったが、そこにもまた権力関係やジェンダーの力学が存在していた。こうした複合差別の構造の中で、先住民女性は生存のための戦略的行動を取らざるを得ない状況にあるといえた。